

## 厩肥連続施用適量試験 (1)

甲斐光夫・瀧岡 勝・塚元敏己  
内村忠道・足立照夫  
(九州農業試験場)

## I 緒 言

青刈飼料作物を火山灰土壌の同一圃場で引続き栽培を行う場合、地力維持のため、連続使用すべき厩肥の適当な施用量を知るため、1955年よりこの試験を開始しているが、今回は同年より1960年までの5ヶ年間の試験経過の概要を報告する。

## II 試験方法

1. 厩肥 (a当kg) 0, 37.5, 75, 150, 300の施用区を設け、1区16.25m<sup>2</sup>の3区制で、前作を収穫後、耕起、整地し、前作と同一処理法で、第1表の耕種法により、冬作に青刈エンバク、夏作は青刈トウモロコシを栽培して、連年の生育を調査し、比較検討している。

第1表 耕種概要

項目	作物	青刈エンバク	青刈トウモロコシ
供試品種		バージニャーグレー	ホワイト、デントコン
元肥 (a当kg)		硫酸 1.5 過石 3.0 塩加 1.13 石炭 11.25	冬作に同じ
追肥 (a当kg)		1月下旬, 3月上旬 硫酸各々, 0.75	7月中旬 硫酸 1.5
播種法		畦巾60cm 播巾12cm 条播, 播種量a当 0.45kg	畦巾75cm, 株間15cm 播巾12cm 催芽種子2粒宛点播
播種期	年	播種	刈取
及び	1955	11月2日	—
	1956	9月28日	5月17日
	1957	10月10日	5月16日
	1958	10月10日	5月16日
刈取期	1959	10月10日	5月15日
	1960	—	5月15日

註. 青刈トウモロコシの1, 2, 4年作は台風又は強風雨のため倒伏したので生育中のものを刈取つた。その他はいずれも乳熟期の刈取である。

る。

2. 厩肥は馬の厩肥で畜舎から搬出して約180日前後、堆肥舎内に堆積し、その間3回の切りかえしを行った、完熟厩肥である。

## III 試験経過

5ヶ年間の生育収量は第2表に示す通りで、年次間にはかなりの差異が認められるが、処理間では厩肥の対数的増施によって、直線的に増収した。

第2表 生草収量 (a当kg)

年次	作物名	処理別				
		0区	37.5kg区	75kg区	150kg区	300kg区
1年	青	419.4	463.8	486.0	494.4	556.8
	青計	310.2	370.8	384.0	439.8	494.4
2年	青	308.4	349.8	361.2	388.8	429.6
	青計	332.4	377.4	394.2	433.8	488.4
3年	青	390.0	453.6	502.2	588.0	613.8
	青計	405.6	442.2	483.6	570.6	686.4
4年	青	355.8	400.2	463.8	536.4	631.2
	青計	374.4	494.4	546.6	564.6	586.8
5年	青	304.8	349.8	385.2	454.2	518.4
	青計	366.6	393.6	427.8	532.2	644.4
5ヶ年間平均	青	671.4	743.4	813.0	986.4	1,162.8
	青計	355.7	403.4	439.7	492.4	550.0
	青計	357.8	415.7	447.2	508.2	580.1
	青計	713.5	819.1	886.9	1,000.6	1,130.0

註. 青エは青刈エンバク、青トは青刈トウモロコシを示す

## IV 摘 要

目下試験継続中である。